

## 渡辺復興大臣の岩手県訪問ぶら下がり会見録

(平成30年10月18日(木) 16:41～16:48於) 陸前高田市)

### 1. 発言要旨

本日、山田町、宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、そして陸前高田市を訪問し、市長、町長への復興大臣就任の挨拶と併せまして、現地視察を行いました。

生活インフラの復旧をはじめ、役場や駅を中心としたコンパクトなまちづくりや、ラグビーワールドカップの試合会場となる釜石鶴住居復興スタジアムの整備など、復興は着実に進展していると思われませんが、まだまだ完成に向けて全力で取り組んでいるこの陸前高田市のような箇所も見られました。2020年度までに復興をやり遂げるといふ決意の下、復興の加速化に取り組んでまいりたいと思います。

また、産業・生業の再生、被災地跡地の利活用、心のケアなどに課題があるとのことのお話も伺ったところでございます。改めて取り組むべき重要な課題であると認識をしたところでございます。

また、山田町、釜石市、陸前高田市より、それぞれ復興事業に対して要望書を頂いたところでありますが、これらについては復興庁としてしっかりと受け止め、必要に応じて関係省庁と連携しながらしっかりと対応してまいりたいと存じます。

引き続き、現場主義を徹底して、被災者に寄り添いながら被災地の復興に全力で取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

### 2. 質疑応答

(問) 大臣、特に陸前高田の戸羽市長から説明を受けられたと思いますが、あるいは大槌町の城山公園から見られた光景、中心市街地、まだまだ空き地が多く、復興途上だと思われれます。その辺の復興格差については、どのような御認識をお持ちですか。

(答) 私は現地を見まして、それはやっぱり感じたところであります。当然、現地を見ないとその復興の状況はどのような進捗であるということが肌で感じることはできません。今回、この6市町に訪問して、それぞれの進捗の度合いに差があるということを私自身感じました。

したがって、遅れているところに対しては、できるだけそれ相応の対応をしていかなければならない、そういうこともあろうかというふうに思います。

(問) あと2年の復興期間ではかなり難しいという意見は聞かれたと思うのですが、復興庁があと2年で終わるといふ、閉鎖するということについて、後継機関についてはどのようにお考えですか。

(答) 後継機関については、ただいま被災地の市長さん、県の知事さ

ん、それぞれのところからいろいろと意見を伺っているところでございます。その内容について整理をしている段階であります。

こういったものを整理した上で、今後検討していかなければなりません。実は、復興計画の見直し期間が今年度末までということになっておりますので、それに向かってしっかりとした対応をしていかなければならないというふうに思います。

(問) 大臣としては後継機関が必要であるということ考えておられるということですか。

(答) いや、まだそこまでは申し上げることはできません。今、整理をしている最中であるということをお理解していただきたいというふうに思います。

(問) 大臣、一度震災後に陸前高田を訪れたことがあると伺ったのですけれども、そのときと今を比べて、率直にどう思われますか。

(答) あのとときはあまりにもひどい状態であったという、これは映像でも見た、今焼きついておりますけれどもね、その状況とはやはり大分変わっております。ただ、復興という視点から考えていきますと、まだまだ陸前高田の状況というのは、ほかの他市の状況に比べてまだまだこれからやるべきことが多いのではないかなということを感じました。

(問) 一部報道であるように、大臣が代表を務める自民党の千葉6区の支部が、国から補助金を受けていた企業から寄付を受けていた件について、違法ではないですけれども、政治資金法の趣旨からは望ましくないというような意見もあります。大臣の認識は如何でしょうか。

(答) その問題について、具体的に私まだ見ておりません。御覧のとおり、私は今、被災地視察を真剣に取り組んでいる状況でありますので、具体的な答弁は差し控えさせていただきますが、基本的には法的に私は問題ないというふうに思っております。

(問) 仮設商店街も御覧になったと思うのですが、復興しているところもあれば、まだまだのところもある。仮設店舗の解体時の助成などは来年度も続けていただけますか。

(答) この問題もやはり大きな問題でありますので、しっかりとその辺は対応させていただきたいというふうに思います。

(問) 釜石の復興スタジアムを御覧になったと思うのですが、岩手県で今からラグビーの来年の大会に向けて機運が盛り上がっていると思うのですが、それを御覧になって印象というか感想をちょっとお願いできればと思います。

(答) はい。まず、あのスタジアム、大変すばらしいと思います。まずは景観がいいですね、山がよく見える、そして海が見える。こういったところにスタジアムができたということは、訪れる人にとってもいい印象を与えていくのではないかな、そのように思っております。

で、是非とも来年度のラグビーのワールドカップについては盛り上げていきたい、私もそのように思っております。

（問）どうやって盛り上げていきたいか。どのようにして盛り上げていくか。

（答）それはやはり発信をすることでしょう。今から、そのワールドカップについていろんな形で発信をしていく、それを国としても応援をしていくということだというふうに思います。

（問）大槌町で城山公園の上から津波で傷んだ庁舎を御覧になったと思いますが、先程も戸田市長に、あれは残してもいいんじゃないかとかいろいろおっしゃって、震災遺構というものについては、復興庁のお金を使って保存といういろんな考え方がありますが、一般的な意見で結構なんですけども、そこかしこにいまだにまだ残っている傷んだ震災遺構については残す方向とかそういうものについてはどんなお考え、御認識なのか。

（答）基本的には地元的首長さんの考え方によるというふうに私は思いますので。

（問）首長とか住民のということですか。

（答）そう、住民です。そういった人たちの、やっぱり皆さん方の気持ちで考えていく内容だというふうに思います。それが決まれば、復興庁としても何らかの形で支援していくということもありますけれども、原則やはり被災地の首長、住民の皆さん方だというふうに思います。

（問）国の方で主導して、何か残せとか、残さんとかいう問題じゃないと。

（答）ええ、そうですね。はい。

（以 上）